

令和6年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 算 数

番号 観 点	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
	東書	<新編 新しい算数> 112・113・212・213・312・313・412・413・512・513・612
取扱内容 学習指導要領の総則及び各学年の目標・内容等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数と計算では、第4学年の「簡単な場合についての割合」から割合の学習が始まるが、第3学年から、倍に関する内容を単元化して、三用法（割合に関する3つの計算方法）を相互に関連づけてとらえるなど、割合に関する学習を丁寧に積み上げられるように配慮されている。 ○ 図形では、低学年において、身の回りのものの形に着目することから学習に入り、学習意欲を高めて主体的に学習に取り組めるようにしているなど、全国学力・学習状況調査及び各種調査から、図形領域について、色板等の半具体物を使った様々な活動を扱い、図形の構成や分解、移動についての素地を培うことができるようになっている。 ○ 測定では、量の単位を用いて的確に表現する力が身に付けられるように、鉛筆の長さを比べる方法を考えたり、はがきの横の長さを測ったりする活動を通して、量の概念について理解するとともに、身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉えることができるなどの特色が見られる。 ○ 変化と関係では、二つの数量の関係を表や式を用いて考察する力が身に付けられるように、二つの時計板の時刻の関係を式に表したり、正三角形を並べてできた図形の正三角形の数と周りの長さの関係を表に表したりする活動を通して、表やグラフに表す技能を身に付けるとともに、伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見いだすことができるなどの特色が見られる。 ○ データの活用では、各学年において、前後の学年の内容も視野に入れ、児童の発達の段階、単元の相互の関連や領域のバランス、学習効率、指導の時期等を十分考慮しながら、身のまわりのさまざまな問題解決や長期休業時の自由研究等に活用できるように配慮するなど、系統的、発展的、効果的に学習が積み上げられるよう構成が図られている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応では、既習を活用して解決したり、学習したことをもとに次時の学習を創造することを促したりするなど、問題解決型の授業を想定した構成・展開が図られている。 	
内容の構成・排列・分量等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元末に学習した基礎的・基本的な概念や性質の理解・技能の定着を図るため「たしかめよう」を設け、知識・技能を確実に身に付けることができるようになっている。 ○ 第2学年下巻以降の全単元において、単元導入の「単元プロローグ」では、対話を通して単元全体の課題を見出し、単元末「つないでいこう 算数の目」下段では、単元の学習を対話を通して総括する活動を示唆するなど、対話が重視されるよう構成されている。 ○ 自力解決の場面では、既習の内容から類推的、帰納的、演繹的な考えを用いて見通しを立て、複数の考えを試みるよう構成されている。 ○ 習熟に時間を要する内容やスパイラルに学習することが有効な内容については、2つの単元に分けて段階的に取り扱うようにしている。特に計算単元等は、練習の機会を増やすよう学期末や学年末の配置を避けるなどの配慮がされている。 ○ 第3学年「重さ」と理科の「重さ」、第4学年「折れ線グラフ」と理科の「天気の様子と気温」等、内容的に関連の深い内容については、指導時期を考慮した排列になっている。 	
使用上の配慮等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「つないでいこう算数の目」や「算数マイノートを学習に生かそう」で、次に学習してみたいことを想起する子供の姿を例示したり（全学年）、コラム「ますりん通信」で算数の学習に関連する多方面からの話題や見方・考え方等を取り上げたり（第2～6学年）するなど、児童の学習意欲を高める工夫が大変よくできている。 ○ 吹き出しで子供がより良く問題解決しようとする姿や発展的に学習しようとする姿を例示したり（全学年）日常生活と学習場面を関連付け、学習することの意義や学習内容の有用性を実感できるようにしたり（全学年）するなど、児童の主体的な学びに適している。 ○ 視認性の高いUD教科書体を使用したり（全学年）、カラーユニバーサルデザイン、余白を生かした紙面デザインを徹底したり（全学年）するとともに、一人一台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、自動正誤判定や結果の記録機能で、個別最適化された学びを支援できるようにするなど、使用上の便宜が図られている。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 低学年では、他教科や幼児期の教育との関連を図る工夫として、他教科の学習場面が問題場面として採用されていたり、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえたページが設定されていたりしている。 ○ 道徳科と関連した工夫として、「学びのとびら」「今日の深い学び」の授業のページでは、問題解決の過程で他者の考えを検討する場面を示して、男女の区別や属人的な視点からではなく、数学的な視点から公平に検討することが扱われている。 ○ プログラミングができる二次元コードを用意し、コンピューターを活用したプログラミングに取り組めるよう工夫されている。 	

令和6年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 算 数

番号 観点	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
取扱内容 各教科・各学年の学習指導要領の総則及び目標・内容等	大日本	<新版 たのしい算数> 114・115・214・314・414・514・614
内容の構成・排列・分量等		<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2～6学年、学年1冊の合本とすることにより、学校行事や研究発表等に応じて、単元排列を入れ替えることができるようにするなど、1年間の学習内容を見通して計画を立てられる配慮がなされている。 ○ 単元末の「たしかめ問題」では、単元で使いたい見方・考え方を問う問題「見方・考え方をたしかめよう」を新設し、単元で大切な数学的な見方・考え方を確かめられるような構成になっている。 ○ 導入の段階で、児童自身が問題や疑問を見だし、主体的に学習に取り組めるような題材を工夫するとともに、「ふくろう先生のならほど算数教室」のコーナーでは、算数への興味・関心を高めたり、算数が社会で生かされていることを実感したりすることができるようにしている。 ○ 算数に関わる海外の文化や言葉を紹介するなど、異文化理解が図られるように配慮されている。
使用上の配慮等		<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の導入コーナーで、児童自身が問題や疑問を見いだす題材を扱ったり（全学年）、「ふくろう先生のならほど算数教室」で、算数が社会で生かされていることを実感できるように、算数を生かして仕事をされている方へのインタビューを掲載したり（第3～6学年）するなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 巻頭の「算数の学び方」で、問題解決型学習の流れを示すとともに、学習したことを生活に生かそうとする様子や発展的に問題を見いだす様子を掲載したり（全学年）、単元や毎時の導入で、児童が問題や疑問を見いだせる題材を掲載したり（全学年）するなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 見やすく読みやすいUDフォントを使用したり（全学年）、色覚の特性によらず情報が読み取れる配色を用いたり（全学年）するとともに、一人一台端末を活用した学習活動として、二次元コードを豊富に掲載し、シミュレーションコンテンツで、簡単に何度でも試行錯誤することができるようにするなど、使用上の便宜が図られている。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭等での生活に学習を生かす「おうちで算数」のページを設け、知識・技能の定着を促す工夫がみられる。（第1～3学年） ○ プログラミング教材を全学年に設け、アンプラグドとビジュアルの2種類を掲載している。 ○ ソフトを実際に使ってプログラムをつくる活動が設けられている。学習専用のウェブサイトや使い方の動画、サンプルファイルなどのデジタルコンテンツも設けられ、児童だけではなく指導者も扱いやすくなるよう配慮がされている。 ○ イラストや写真の中で登場する人物は、男女のバランスに偏りがないように配慮するなど、LGBTQへの配慮がされている。

令和6年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 算 数

番号 観 点	発 行 者 略 称 学 図	教 科 書 番 号 <みんなと学ぶ 小学校 算数> 116・117・216・217・316・317・416・417・516・517・616・617
取 扱 内 容 〔 学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等 〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数と計算では、第1・2学年の数量を表す際に、小鳥の数を数えたり、乗り物に乗っている人数を求めたりするなど、量感覚が具体的にイメージできるように構成されている。 ○ 図形では、第3・4学年の実際に図を作り、観察する活動を通して、その性質を分類する展開になっている。 ○ 測定では、文房具の重さを比べたり、はかりを使って文房具の重さを量ったりして、身の回りにあるものの特徴を量に着目して捉えるなど、単位を用いて的確に表現する力を育てる活動を取り入れている。 ○ 変化と関係では、表やグラフに表す技能を身に付けるとともに、伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見出して二つの数量の関係を表や式を用いて考察する力を育てる活動を取り入れている。 ○ データの活用では、目的に応じてデータを収集し、特徴や傾向に着目して表現し、それらを用いて問題を解決したり、多面的に捉えて考察したりする展開になっている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に質する学習への対応では、第1学年「減法」、第2学年「表やグラフ」、第3学年「除法」、第4学年「角の大きさ」、第5学年「割合」、第6学年「比例」において、考え方の相違点についての話し合い活動等を通じて、考えを広げたり深めたりする活動が設定されている。 	
排 列 ・ 分 量 等 ・ 構 成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の学習では、次の学びにつながる吹き出しを挿入することで、今日の学びが明日の学びにつながっていく算数の系統性を意識できるように配慮されている。 ○ 連続して扱うことで身に付く学習内容と、スパイラルを意識することで身に付く学習内容を選別し、より児童が学びやすいような単元排列になるように工夫されている。 ○ 本文と練習問題の分量バランスや、無理のない時数配分に配慮し、児童が学習内容を確実に身に付けることができるようにするとともに、つまずきやすい内容には十分に配慮した排列を構成している。 	
使 用 上 の 配 慮 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「見方・考え方」を児童が使いたくなるよう「考え方モンスター」として紙面に具現化したり（全学年）、「算数を使って」でこれまで学んできた学習内容や仕方を活用してSDGsに関連した題材に取り組む事が出来るようにしたり（全学年）するなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 身の回りの生活の中や、算数の学習の中から問題を発見する事ができるよう「?を発見」のページを設定したり（全学年）、次の学びへの関心・意欲が高まり、真理を求める態度を養う事ができるよう「つながりの?」を設定したり（全学年）するなど、児童が主体的に学習に取り組む事ができるような工夫がなされている。 ○ 全面的にUDフォントを使用したり（全学年）、目に優しく判別のしやすい色を使用したり（全学年）するとともに、一人一台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、5つのマークを付け、デジタルコンテンツにどのような内容が含まれているか分かるようにするなど、使用上の便宜が図られている。 	
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第2学年以上に“学びの地図”となる「〇年生で見つけた見方・考え方」の設定し、学年間の連携を示している。 ○ 幼保小及び小中の連携を意識した内容構成で、特に「中学校へのかけはし」は別冊で設けている。 ○ キャリア教育をはじめ、環境教育、安全・防災教育、国際理解等、様々な教育課題に対応する内容を取り上げた構成になっている。 	

令和6年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 算 数

番 号	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
観 点	教 出	<小学算数> 118・218・219・318・319・418・419・518・618
取 扱 内 容 学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数と計算では、友達と協力したり、友達の考えのよい所を見つけたりしながら、多様な考え方に触れるような構成になっている。また、第4学年の「式と計算」では、それまでに学習した計算のきまりについて、共通点や相違点を整理するなど、計算方法を着実に身に付けられる構成に特徴がある。 ○ 図形では、実際に図形を作ったり、調べたりする活動を通して、興味・関心を高められるように構成されている。 ○ 測定では身の回りの量に興味をもち、調べることで、実生活に結び付けながら学習できるような構成となっている。 ○ 変化と関係では、問題解決に用いた見方が、他の学習場面でも用いられることに気付かせ、これからも使っていくように動機付ける構成となっている。 ○ 第4学年の「変わり方」では、「数が変わると伴って変わる数」と「数が変わっても変わらない数」に注目し特徴を見つけさせるなど、課題解決のための視点が分かりやすくまとめられている。 ○ データの活用では、生活と関連をもたせることで、学習した知識を活用しようという意欲につながる構成となっている。また、統計的な解決方法を使って考察できる教材を用いることで、必要感のある学習課題が設定されたり、学習の目的意識を高めたりできるような流れが特徴的である。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に質する学習への対応では、第1学年「加法」、第2学年「2位数の加法」、第3学年「乗法」、第4学年「面積」、第5学年「割合」、第6学年「比例」において、考え方の相違点や共通点についての話し合い活動等を通じて、考えを広げたり深めたりする活動が設定されている。 	
排 列 内 容 の 構 成 ・ 分 量 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 系統性や習熟期間等を考慮し、最適な学習効果が得られる単元排列の工夫が見られる。 ○ 基礎・基本の内容と、選択的な内容を分け、標準時数の中で無理なく取得することができるようにするとともに、単元の学習や家庭学習において、定着のために十分な分量の問題が用意されている。 ○ 単元の前半で見出した数学的な見方・考え方を「つながるミカタ」で顕在化し、後半の学習で自ら活用していけるように構成されている。さらに「つながるミカタプラス」では、見方・考え方を領域を超えてつなぎ、算数のコツをつかめるように工夫されている。 	
使 用 上 の 配 慮 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近な題材から算数の問題を発見するなど、学ぶ意義を感じ、目的意識をもって取り組める教材や活動を示す「きっかけ」ページを設けたり（全学年）、各単元の終わりに、学習したことを使って取り組む活動を示すページを設けたり（全学年）するなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 単元の導入で、身近な題材から算数の問題を発見し、目的意識をもって数学的活動に取り組めるようにしたり（全学年）、単元末で、学習したことを日常場面に活用し、「何ができるようになったか」実感できるようにしたり（全学年）するなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ UDデジタル教科書体を使用したり（全学年）、識別しやすい配色を用い、図版に色名を付記したり（全学年）するとともに、一人一台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、毎時の知識・技能のまとめをアニメーションにして、視覚的にも理解が深められるようにするなど、使用上の便宜が図られている。 	
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年を越えて既習事項を振り返る巻末「学びのマップ」を設けたり、つまずきのポイントを丁寧に支援する「考えるヒント」を設けたりして、確かな学力を育てる工夫がみられる。 ○ 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた問題設定の工夫がある。 ○ 教科横断的に取り組める教材を掲載し、他教科と連携した場面を豊富に扱っている。 ○ SDGsや防災、安全、健康等の現代的な諸課題に対応した問題を掲載している。 	

令和6年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 算 数

番号 観点	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
取扱内容 各教科・各学年の目標・内容及び学習指導要領の総則及び内容等	啓林館	<わくわく算数> 120・121・220・221・320・321・420・421・520・620
内容の構成・排列・分量等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の学習は、「学習の入り口→新しい学習→練習→学習の出口」という流れをとり、児童の思考の流れにそった工夫が見られる。 ○ 既習事項を復習できるよう、練習問題が豊富に配置されている。 ○ 巻末の問題「もっと練習」が設定されており、習熟度別学習に対応できるよう配慮された内容となっている。 ○ 第2～6学年の巻末には、「算数資料集」が設けられ、説明の仕方や図の書き方、学習した中で特におさえておきたい情報などが、分かりやすくまとめられている。 ○ 「わくわく算数学習」コーナーを設け、子どもたちがコミュニケーションをとりながら、主体的に学習が進められるよう工夫が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数と計算では、関連する既習事項が復習できるよう、問題が配置されるとともに、第6学年の「分数のかけ算」では、前学年までに学習した「分数のたし算・ひき算」を織り交ぜ、児童が躓きやすい計算を正しく身に付けられるよう、工夫が図られている。 ○ 図形では、色々な図形を組み合わせて形を作る活動を通して、図形に関する感覚を豊かにするよう工夫が図られている。また、図形を構成する要素について実際に調べたり、作図をしたりする活動を通して、図形に関する理解が深められるよう配慮されている。 ○ 測定では、自分の手や身の周りにある物を使ってものの長さを調べるなど、様々な方法で数量を把握する力を身に付けるよう排列されている。 ○ 変化と関係では、「割合」の問題で数量の倍関係を正しく把握する技能が身に付くよう、第3学年以上の各学年で、割合を求める(第1用法)、比べる量を求める(第2用法)、もとにする量を求める(第3用法)が整理されている。また、小数や分数、百分率等の学習においても、この3用法を使って学習を系統的に進めるよう構成されている。 ○ データの活用では、問題の発見→調査の計画→データの収集→分析→結論のプロセスに沿って学習に取り組めるようになっている。また、子どもが話し合うイラストから、課題意識を持ちやすいよう工夫が図られている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、見通しをもって学習を進められるような学習課題が設定されている。その中で、説明や話し合いの活動を進めることで考えを深めたり広げたりできるような活動で構成されている。
使用上の配慮等		<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学びをいかそう」で算数を学ぶ意義を感じられる題材を取り扱ったり(全学年)、「わくわくSDGs」でエネルギーの利用等、社会における答えが1つに定まらない問いに対して算数を使って取り組み、自分たちに何ができるかを考えたり(第3～6学年)するなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 児童から「めあて」が引き出せるよう、児童の「問いや気付き」を「めばえ」として掲載したり(第2～6学年)、児童自らが単元全体の学習を振り返り、生かしていけるよう、「たしかめよう・ふりかえろう・やってみよう」を設定したり(第2～6学年)するなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 識別がしやすいUDフォントを使用したり(全学年)、色覚の特性によらず学びやすい配色を用いたり(全学年)するとともに、一人一台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、具体物の操作では時間のかかる創造的な活動も簡単に行えるようにするなど、使用上の便宜が図られている。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ○ 二次元コードを5種類に分け、どのような内容の学習なのかを一目で分かるように設定している。二次元コードは大きく、読み取りやすい。 ○ 主問題全てに「スマートレクチャー」の解説動画を設け、欠席による未学習対応や不登校対応等、様々な用途で使用できる工夫を行っている。 ○ プログラミングについては、第5・6学年の「算数ラボ」を中心に取り扱い、巻末付録ページやオリジナルのプログラムコンテンツ、その他のプログラミングソフトなどを選んで使えるよう工夫が図られている。 ○ 第6学年では、キャリア教育の一環として、社会で活躍する人のインタビューを掲載し、算数がそれぞれの職業にどのように活かしているかを伝える場を設けるなど、学ぶことの目的を考える工夫が図られている。

令和6年度から使用する小学校用教科用図書の答申書

教科名 算 数

番号 観点	発 行 者 略 称	教 科 書 番 号
	日 文	<小学算数> 122・123・222・223・322・323・422・423・522・622
取 扱 内 容 学習指導要領の総則及び各教科・各学年の目標・内容等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 数と計算では、多様な考えに気付けるよう工夫が図られているとともに、第6学年では、分数のかけ算やわり算で、面積図を用いたり、式の操作をしたりすることで、分数の乗法や除法の計算の仕方を考えられるよう構成されている。 ○ 図形では、紙を切って図形を作ったり、仲間分けをしたりしながら、図形の内容を理解し、図形の特徴を捉えられるよう配慮されている。また、図形の特徴を踏まえた作図方法が理解しやすいよう構成されており、第5学年の合同な図形では、見開き1ページに3つの作図方法が手順に沿って示されるなどの工夫が図られている。 ○ 測定では、長さや重さを比べたり測ったりする活動を通して、数量の概念を理解するとともに、量の単位を用いて的確に表現する力を身に付けられるよう構成されている。 ○ 変化と関係では、表に整理して数量の変化の規則性を見つけたり、数直線を用いて数量の関係を理解したりするよう構成されている。その中で、第4学年では、言葉の式から○や□を用いた式へと丁寧に段階を踏むことで、児童が理解しやすい構成となっている。 ○ データの活用では、日常の中にありそうな題材を選択し、児童がデータ収集や分類・整理を楽しめるよう配慮されている。その中でも、第5学年では統計資料を読み取る問題を巻末にも設定し、児童が問題に慣れ親しめるよう排列されている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、見通しをもって学習を進められるような学習課題が設定されている。その中で、説明や話し合いの活動を進めることで考えを深めたり広げたりできるような活動で構成されている。 	
内 容 の 構 成 ・ 排 列 ・ 分量等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新しい単元に入る前に、その単元に関わる既習事項を押さえるための問題演習ページを設け、スムーズに次の学習を進めることができるよう構成されている。 ○ 巻末の「算数マイトライ」では、知識及び技能の定着のために、補充問題を豊富に設定するとともに、習熟度に合わせて意欲的に学習に取り組めるよう、「ぐっとチャレンジ」「もっとジャンプ」の応用的・系統的・発展的な学習を進められるよう工夫が図られている。 ○ 単元末の演習問題では、知識及び技能をしっかりと定着させるために、児童がつまづきやすい内容を重点的に取り上げ、間違いやすい問題を掲載することで、児童が問題のポイントに注目しやすいよう工夫が図られている。 	
使 用 上 の 配 慮 等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元アプローチとして、ストーリー性やビジュアル性のある導入ページを設けて学習の課題を自ら見つけられるようにしたり（全学年）、「なるほど算数」で算数につながる数学界の偉人や伝統的な和算の紹介等の算数に関する豆知識的なコラムを掲載したり（全学年）するなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。 ○ 「算数マイトライ」で理解度、学習の目的に合わせて様々なジャンル・難易度の問題を掲載したり（第2～6学年）、「使ってみよう」で作業的・体験的な活動や学習したことを実際の場面に活用する活動の充実を図ったり（全学年）するなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。 ○ 視認性の高いUDフォントを教科書体やゴシック体にも採用したり（全学年）、図形に使う色数を抑え、目に優しい色を使用したり（全学年）するとともに、一人一台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、アニメーションや自分で操作できるコンテンツで理解を深めるようにするなど、使用上の便宜が図られている。 	
そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼保小や小中連携を意識した構成がみられ、特に第5・6学年において中学校の学習とリンクするマークが記載されていたり、教科担任制を意識しスピンをつけたりする工夫がなされている。 ○ 現代的な諸問題について対応する内容構成で、特に人権上の配慮がみられる絵や写真で構成されている。 ○ デジタルコンテンツを活用し、プログラミングを体験できるようになっており、論理的思考力を身に付ける工夫が図られている。 ○ 図画工作と関連させるなど、他教科の学習とつなげて、算数の学習内容を活かす力や態度を育成する工夫が随所で見られる。 ○ 児童がつまづきやすい内容については、全国学力・学習状況調査やその他各地域での学力調査の結果をもとに掲載している。 	